



AID(非配偶者間人工授精)で生まれた 子どもの立場からみた生殖技術の問題点

非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ会員

第三者の関わる生殖技術とは

	AID	提供精子 体外受精	卵子 提供	胚提供	人工授精型 代理出産	体外受精型 代理出産		
精子	第三者	第三者	本人	第三者	本人	本人	本人	第三者
卵子	本人	本人	第三者	第三者	第三者	本人	第三者	第三者
出産	本人	本人	本人	本人	第三者	第三者	第三者	第三者

AIDとは

- 非配偶者間人工授精（Artificial Insemination by Donor : AID）
DI : Donor Insemination と言われることもある
- 男性側に不妊の原因がある場合に用いる人工授精
- 匿名の第三者の精子を利用

国内の第三者の関わる生殖技術の状況

1948年 慶應義塾大学でAID実施

1997年 AIDについての日本産科婦人科学会会告

1998年 姉妹間での卵子提供の実施が判明

1998年 厚労省 生殖補助医療に関する専門委員会

2000年 精子・卵子・胚の提供を認め、代理出産を禁止とする報告書

2001年 姉妹間での代理出産の実施が判明

2001年 厚労省 生殖補助医療部会

2003年 子どもの出自を知る権利を認める報告書

2006年 米国での代理出産により生まれた子の出生届についての裁判

2007年 日本学術会議 生殖補助医療の在り方検討委員会

2008年 代理出産を原則禁止としながらも「試行」を残した報告書

生殖技術はどのように拡大してきたのか

- 事実が積み重ねられ、後から追認されるという形
- 秘密と匿名のもと、実施後の追跡調査が行われていない
- 技術で生まれた人の意見が反映されるシステムにはなっていない
- 多くの人生まれ、現在も技術を選択する人がいるなかでの議論が難しい

AIDで生まれたということ

- 生まれた人が事実を知る経緯
- 事実を知って感じたこと
 - 親が長い間隠していたということ
 - それまでの自分が崩れる感覚
 - 情報がまったくない
 - 提供者が分からない
 - 相談できる場所や人がいない



これまでの技術の振り返りと評価を

- 現状と問題点を明らかに
- 技術の是非について、社会的議論を
- 当事者を否定することと、技術を否定することは違う

非配偶者間人工授精で生まれた人の自助グループ DI Offspring Group (DOG)

- AIDで生まれた当事者同士が、一人で悩まず互いに話し合える場をつくること
- この技術の抱える問題について、生まれた人の立場から社会に訴えていくこと

2005.01 当事者3人が集まる

2005.11 第1回講演会「子どもが語るAID」

2006.08 第2回講演会「AID討論会」

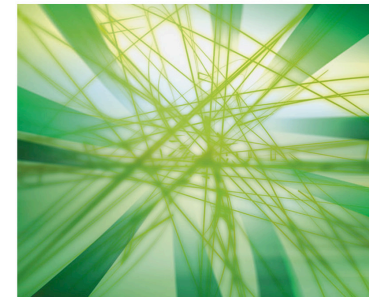
2007.12 第3回講演会「生殖技術について、今考えてほしいこと」

冊子「生殖技術について、今考えてほしいこと」作成

ブログ開設 <http://blog.canpan.info/dog/>

2008.08 第4回講演会「生殖技術で生まれた子どもたちからのメッセージ」

子どもが語るAID The offspring speak about AID



生殖技術について、今考えてほしいこと

AIDは60年程前に行われているにもかかわらず、その実態は明らかではありません。しかし第三者からの提供を受ける生殖技術は、精子だけでなく卵子の提供や代理出産と、どんどん拡大していく一方です。AIDで生まれた当事者の立場から、現在起こっている問題を明らかにし、解決への道、そしてこれからの生殖技術について、改めて考えるきっかけになればと思います。この冊子をつくりました。

第三者の関わる生殖技術について考える会

- 第三者の関わる生殖技術について、さまざまな立場からその現状と問題を明らかにする
- 社会に対し問題提起を行い、第三者の関わる生殖技術について社会的議論が起こることを求める
- これまで行ってきた技術の振り返り、そして社会的な議論なしに、現状のままこれら技術が進み続けることには反対する
- 第三者の関わる生殖技術の是非を、今一度問い直す

2010.03 立ち上げ記者会見・立ち上げ集会

不定期に勉強会を開催

